

**「EOS R システム」の望遠ズームレンズ“RF70-200mm F2.8 L IS USM”を発売
大口径・ショートバックフォーカスにより世界最短・最軽量を実現**

キヤノンは、「EOS R システム」の核となる交換レンズ「RF レンズ」の新製品として、プロ・ハイアマチュアユーザー向けの大口徑望遠ズームレンズ“RF70-200mm F2.8 L IS USM”を2019年11月21日に発売します。



“RF70-200mm F2.8 L IS USM”

“RF70-200mm F2.8 L IS USM”は、描写性能や操作性、堅牢（けんろう）性などで最高水準の性能を追求した「L (Luxury)」レンズです。RFマウントの特長である大口径・ショートバックフォーカス^{※1}を生かした設計により、焦点距離70mmから200mmのズーム全域で画面の中心部から周辺部まで高画質を実現しています。開放F値2.8のプロ・ハイアマチュアユーザー向けの望遠ズームレンズをラインアップに新たに加えることで、広角・標準・望遠からなるRFレンズの「F2.8 L IS USM ズームレンズシリーズ」を構築し、ユーザーの多様なニーズに応じていきます。

■ 高い機動性を実現する世界最短・最軽量ボディー

大口径マウントとショートバックフォーカスを生かし、カメラ側の撮像面近くに大口径レンズを配置して光学系を小型化するとともに、全長が変わるズームタイプの採用と非球面レンズ2枚の効果的な配置により、フルサイズセンサー搭載のレンズ交換式カメラ用焦点距離70-200mm、開放F値2.8のレンズとして、世界最短・最軽量^{※2}を実現しています。

■ 幅広い焦点距離における高画質

「スーパーUDレンズ^{※3}」1枚、「UDレンズ^{※3}」3枚、「UD非球面レンズ」1枚、「ガラスモールド非球面レンズ」1枚を含む13群17枚の光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を画面中心部から周辺部まで低減し、70mmから200mmの幅広い焦点距離において、ズーム全域での高画質を実現しています。

■ 電子式フローティングフォーカス制御の採用による快適な撮影

フォーカスレンズとフローティングレンズ^{※4}の2つのレンズ群を、2つの超音波モーター「ナノUSM」で個別に駆動して最適制御する、電子式フローティングフォーカス制御をキヤノンとして初めて採用しています。ズーム全域で最短撮影距離0.7mを達成するとともに、静止画撮影時の高速AFと動画撮影時の滑らかなAFを実現しています。

製品名	希望小売価格	発売日
RF70-200mm F2.8 L IS USM	オープン価格	2019年11月21日

※1 最後部のレンズ面の頂点から撮像面までの光軸上の距離が短いこと。

※2 世界最短はレンズ収納時。2019年10月23日現在。キヤノン調べ。

※3 「UDレンズ」:「UD (Ultra low Dispersion=特殊低分散) ガラス」を用いたレンズ。「スーパーUDレンズ」: UDレンズの性能を大幅に向上させ、UDレンズ2枚分、蛍石の特性とほぼ同等の効果を備えたレンズ。

※4 撮影距離に応じて、レンズを動かすことで収差を補正するレンズ。

<主な特長>

1. 高い機動性を実現する世界最短・最軽量ボディー

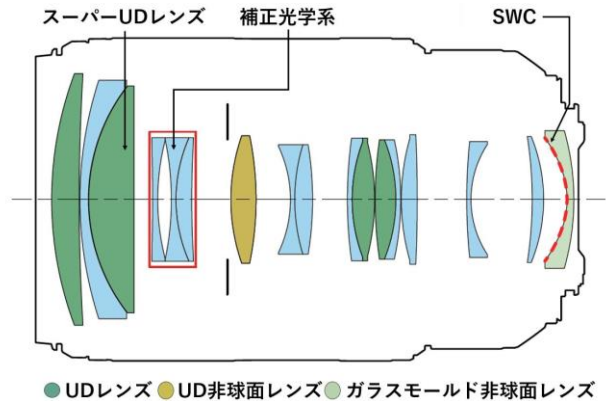
- RF マウントの大口径・ショートバックフォーカスを生かした、カメラ側の撮像面近くへの大口径レンズの配置と、全長が変わるズームタイプの採用、非球面レンズ 2 枚の効果的な配置により、使用するレンズの枚数を削減。これらにより、フルサイズセンサー搭載のレンズ交換式カメラ用焦点距離 70-200mm、開放 F 値 2.8 のレンズとして、世界最短・最軽量を実現。
- 「EF70-200mm F2.8L IS III USM」(2018 年 9 月発売) と比較して、全長を約 199.0mm から約 146.0mm へ約 27%短縮。さらに質量は約 1,480g から約 1,070g (三脚座別) へ約 28%軽量化。携行・撮影時の負担を軽減。
- カメラボディ側にも多くのレンズを配置することで、重心が手元側に寄り、鏡筒が伸びる望遠撮影においても、良好なホールディングバランスで撮影することが可能。



「EF70-200mm F2.8L IS III USM」と「RF70-200mm F2.8 L IS」の全長・質量の比較

2. 幅広い焦点距離における高画質

- RF マウントの大口径・ショートバックフォーカスがもたらすレンズ設計の高い自由度により、高画質と小型化を両立。カメラ側の撮像面近くに大口径レンズを配置できるため、焦点距離 70-200mm のズーム全域で画面の中心部から周辺部まで高画質を実現。
- プロやハイアマチュアユーザーから露出の設定や調整に定評のあるズーム全域での開放 F 値 2.8 を実現。低照度下においても速いシャッター速度で撮影でき、被写体ブレを低減した撮影が可能。
- 「スーパーUD レンズ」1 枚、「UD レンズ」3 枚、「UD 非球面レンズ」1 枚、「ガラスモールド非球面レンズ」1 枚を含む 13 群 17 枚の光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、70mm から 200mm の幅広い焦点距離において、ズーム全域での高画質を実現。
- キヤノン独自の特殊コーティング「SWC (Subwavelength Structure Coating)」を採用。レンズの表面に可視光の波長よりも小さいナノサイズのくさび状の構造物を無数に並べることで、光の反射を抑制。レンズ内の光の反射が撮影画像に入り込んでしまうフレアやゴーストなどの現象を低減し、高画質を実現。



「RF70-200mm F2.8 L IS USM」(70mm 時)
光学構成図

3. 電子式フローティングフォーカス制御の採用による快適な撮影

- ・フォーカスレンズとフローティングレンズの 2 つのレンズ群を、2 つの超音波モーター「ナノ USM」で個別に駆動して最適制御する、電子式フローティングフォーカス制御をキヤノンとして初めて採用。近距離撮影時の画質を向上させ、ズーム全域での最短撮影距離を「EF70-200mm F2.8L IS III USM」の 1.2m から 0.7m へ短縮するとともに、静止画撮影時の高速 AF と動画撮影時の滑らかな AF を実現。
- ・フォーカス位置により画角変化が生じてしまう「フォーカスブリージング」を低減し、「EF70-200mm F2.8L IS III USM」と比較して画角変化の少ない安定した構図で撮影することが可能。



電子式フローティングフォーカス制御の「ナノ USM」配置イメージ

4. 快適な撮影を実現する 5 段分の手ブレ補正

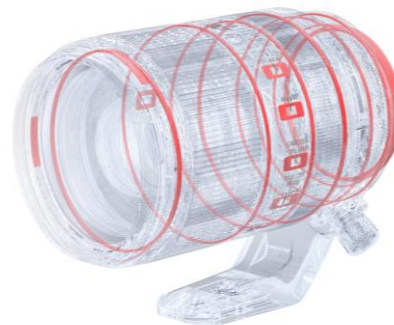
- ・最新のマイクロプロセッサ搭載によるレンズ制御精度の向上とカメラと協調して高精度にブレを低減する「デュアルセンシング IS」を搭載し、シャッタースピード換算で 5 段分*の 高い手ブレ補正効果を実現。また、動画撮影時は、カメラと協調する「コンビネーション IS」により、手ブレを低減。
- ・被写体の動きに合わせて選択可能な、3 つの「IS モード」を搭載。ポートレートや風景など静止している被写体に適した「IS モード 1」、モータースポーツや鉄道写真などで用いる流し撮りに適した「IS モード 2」、スポーツなど不規則な動きの被写体に対して適した「IS モード 3」の 3 つを使い分けることが可能。

※ 焦点距離 200mm、「EOS R」使用時。CIPA 規格に準拠。

5. 「L レンズ」シリーズに相応しい信頼性と操作性

- ・マウント部、コントロールリング、フォーカスリングに防じん・防滴構造を採用*。
- ・レンズ最前面と最後面に油や水滴が付着しにくいフッ素コーティングを採用。レンズに付着した油分なども溶剤を使わずに乾いた布などで簡単に取り除くことが可能。
- ・太陽光に含まれる赤外線線の反射率を高めた遮熱塗料を採用。屋外スポーツなどの炎天下における長時間撮影でも、レンズの温度上昇を抑制。
- ・露出補正や絞り数値の設定などを任意に割り当てて使うことができるコントロールリングを搭載。
- ・PL フィルターなどの操作がしやすいスライド式の調整窓付きレンズフードを同梱。

※ 防じん・防滴に配慮した構造になっていますが、砂じんや水滴などの侵入を完全に防ぐことはできません。



…防じん・防滴シーリング

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

<ご参考：F2.8 Lズームレンズシリーズ>

■ 「F2.8 Lズームレンズシリーズ」の誕生

EF レンズシリーズにおいて、F2.8 から始まるプロ向け大口径ズームレンズが最初に誕生したのは1989年です。当時のEOS シリーズの最高級AF一眼レフカメラ「EOS-1」と同時に「EF20-35mm F2.8L」、「EF28-80mm F2.8-4L USM」、「EF80-200mm F2.8L」の3本を発売しました。1989年以前は、画質や明るさを求めるプロの多くが単焦点レンズを使用していた時代がありました。しかし、レンズ技術の向上により、上記3本の大口径ズームレンズを発売したことで、単焦点レンズ並みの明るさや高画質を実現したズームレンズがプロの間でも使用されるようになっていきました。

<現在までにいたる「F2.8Lズームレンズシリーズ」>

発売年	製品名	発売年	製品名
1989年	EF20-35mm F2.8L	2002年	EF24-70mm F2.8L USM
	EF28-80mm F2.8-4L USM	2007年	EF16-35mm F2.8L II USM
	EF80-200mm F2.8L	2010年	EF70-200mm F2.8L IS II USM
1993年	EF28-70mm F2.8L USM	2012年	EF24-70mm F2.8L II USM
1995年	EF70-200mm F2.8L USM	2016年	EF16-35mm F2.8L III USM
1996年	EF17-35mm F2.8L USM	2018年	EF70-200mm F2.8L IS III USM
2001年	EF16-35mm F2.8L USM	2019年	RF15-35mm F2.8 L IS USM
	EF70-200mm F2.8L IS USM		RF24-70mm F2.8 L IS USM
			RF70-200mm F2.8 L IS USM

■ RF レンズの「F2.8 L IS USMズームレンズシリーズ」

キヤノンは、新たに5段階の手ブレ補正機構や「ナノUSM」、コントロールリングを搭載した「RF15-35mm F2.8 LIS USM」（2019年9月発売）と「RF24-70mm F2.8 LIS USM」（2019年9月発売）、「RF70-200mm F2.8 L IS USM」（2019年11月発売）の広角・標準・望遠からなる「F2.8 LIS USMズームレンズシリーズ」をラインアップに加えることで、プロ・ハイアマチュアを中心にユーザーの撮影表現の幅をさらに広げていきます。



RF レンズの「F2.8 L IS USMズームレンズシリーズ」